授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	看護学概論 I	担当講師	坂本真由美
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>本科目は看護の主要概念を理解し、先達の研究の積み重ねによる看護理論をもとに看護の本質の理解をめざす看護学を学ぶ上での導入部である。</p> <p>本校の教育理念である「その人に寄り添うところ」を育むために、まず本科目で看護の対象である人間理解と人を大切に思える気持ち－権利擁護について考え、看護が人間の生活とどのように結びついてきたかを深く考えるための素材とする。また、最近の厳しい医療現場の現実をふまえながら、社会における看護の位置づけと役割を明確にし、看護そのものへの価値をもつことが看護専門職者としてのアイデンティティを形成することに繋げる。また、看護を思考する態度の導入ともする。このように、本科目では「看護」を学びつつ看護者としての成長の第一歩とする。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 看護を学ぶ意味が分かる	1) 私たちと看護の位置関係	(1) 看護を学ぶとは (2) 成長発達と看護 (3) 生活と看護	講義 グループワーク	
8	2. 看護の基盤となる主な概念から看護とは何かを考える	1) 看護の本質 2) 看護の役割と機能 3) 看護の継続性と連携 4) 看護学に基盤となる主な概念 5) 看護におけるケア 6) 看護実践と質の保証 8) 看護の役割・機能の拡大	(1) 看護の変遷 (2) 看護の定義 法律・職能団体における定義 (3) 看護学におけるメタパラダイム (4) 主な看護理論家の業績と体系 F. ナイチンゲールの『看護覚書』、 V. ヘンダーソンの『看護の意基本となるもの』 その他：ニード論、人間関係論 適応理論、セルフケア理論 (5) 看護におけるケア・ケアリング (6) 看護の質保証に欠かせない要件 (7) 現代の看護の動向と今後の展望 ・ 疾病構造の変化 ・ 看護活動の場 ・ 看護の継続性と多職種連携	講義 グループワーク	
6	3. 看護の展開、質保証のための思考法がわかる	1) クリティカルシンキング 2) リフレクション	(1) クリティカルシンキングの実際 (2) リフレクションの実際 (3) 科学的根拠 (4) 看護過程	講義 グループワーク	
4	4. 看護の対象としての人間が理解できる	1) 人間の「こころ」と「からだ」 2) 成長発達する存在としての人間 3) 生活者としての	(1) 対象理解の基盤 (2) 看護の使命とホメオスタシス (3) 病気による心の変化 (4) 発達段階と課題 (5) 生活者の生理学的・文化的・社	講義 グループワーク	

2	5.国民の健康の全体がわかる	人間 1) 健康のとらえ方	会的・経済的 側面 (6) 看護の対象としての家族 (1) 健康の定義 (2) 権利としての健康 (3) 国民の健康状態と生活	講義
2	6. 看護の提供者について理解できる	1) 職業としての看護 2) 看護職者の種類と役割	(1) 職業としての看護の確立と新たな展開 (1) 保健師助産師看護師法における看護職の定義と役割 －看護師・助産師・保健師 准看護師・看護助手 (2) 看護職の教育制度と就業状況 (3) 看護職者の教育とキャリア開発	講義
2	7.看護の提供の仕組みが理解できる	1) 看護サービス提供の場としくみ 2) 医療安全と医療の質保証 3) 看護職の法と規定	(1) 様々な看護提供の場 (2) 地域包括ケア (3) 看護サービス提供のしくみ (4) チーム医療とその条件 (5) 看護業務の特性と医療事故 (6) 医療安全と医療の質保証	講義
2	8. 看護における倫理について理解できる	3) 看護職者の倫理	(1) 職業倫理としての看護倫理 (2) 対象者の権利擁護 (3) 看護倫理をめぐる取り組み ICN 看護師の倫理綱領 看護者の倫理綱領(日本看護協会)	講義 グループワーク
2	試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 F. ナイチンゲール著 湯楨ます 他訳 看護覚え書 現代社 V. ヘンダーソン著 湯楨ます 他訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 手島恵監修 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理 2022年版 日本看護協会出版会			
参考文献	系統看護学講座 別巻 看護史 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 ナーシング・キャンパス 2022 学研メディカル秀潤社 田村由美 池西悦子著 看護のためのリフレクシヨンスキルトレーニング 看護の科学社 城ヶ端初子監修 実践に生かす看護理論 19 医学芸術社 時実利彦著 人間であること 岩波新書 G124 田村やよひ編集 看護学基礎テキスト第3巻 社会の中の看護 日本看護協会出版会 看護六法 2022年度版 新日本法規 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 医学書院			
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	コミュニケーションの基礎	担当講師	坂本真由美
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>コミュニケーションは、ある動機をもって人に働きかけ、同時に影響を受けるという、人と人との相互作用のプロセスであり、人間関係形成において重要な位置を占める。コミュニケーションは社会生活の基本だが、現在は実際に対面しない形式でのコミュニケーション手法が生活の中にあふれている。そのため、様々な健康段階、発達段階にある人々と直接かかわりあう看護において、コミュニケーションの重要性、困難さに戸惑うケースも多い。看護の基盤は相手と人間関係の形成である。そこで本科目では、対象者やその家族、他の医療職とより良い関係を作り、豊かな看護実践を目指すよう、人としてのマナー、コミュニケーションの基本から関係形成までのプロセスを学び、そのうえで看護者としての効果的なコミュニケーション技術の習得をめざす。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 社会人としてのマナーについて理解できる	1) 社会人として看護学生としてのマナー	(1) 身だしなみ (2) 言葉遣い (3) 立ち居振る舞い (4) 挨拶・応対 (5) マナー	講義 演習	
2	2. コミュニケーションの特徴と医療におけるコミュニケーションが理解できる	1) コミュニケーションの意義と目的 2) 聴き方、伝え方、話し方	(1) コミュニケーションとは (2) 双方向的な相互作用を生むコミュニケーション (3) 人間のコミュニケーションの特徴 (4) 医療におけるコミュニケーションの重要性	講義 演習	
2	3. コミュニケーションの構成要素と成立過程が理解できる	1) コミュニケーションの手段 2) 構成要素と成立過程	(1) メッセージの表現装置としての手段 (2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 (3) ミスコミュニケーションとノイズ	講義 演習	
2	4. 看護における相互作用と役割について理解できる。	1) 看護における援助的人間関係	(1) ケアの原点：援助は人間関係のプロセスのもの (2) 対話的關係	講義 演習	
4	5. 関係構築のためのコミュニケーションの基本が理解できる	1) 接近的行動と非接近的行動 2) 言語的コミュニケーション 3) 非言語的コミュニケーション	(1) 接近的コミュニケーションの原理 (2) 接近的行動と非接近的行動の具体例 (3) 患者に寄り添う態度とは (4) 非言語的メッセージの重要性と活用	講義 ロールプレイ	
4	6. 看護専門職者としての振り返りについて理解できる。	1) プロセスノート 2) プロセスノートの活用	(1) プロセスノートの目的 (2) 場面を再構成する上で重要なこと (3) プロセスノートの記述・分析・評価 (4) 関係形成過程の振り返り	講義 演習	
4	7. 効果的なコミュニケーションの実際を理解し、活用できる	1) 傾聴 2) 情報収集の技術	(1) 看護における傾聴 (2) 聴くための条件 (3) 共感的理解・受容的態度 (4) 聴き方 (1) 適切な質問 (2) クローズド・クエスチョンとオープン・クエスチョン	講義 演習	

2	8. コミュニケーションに障害のある人への対応が理解できる	3) 説明の技術 4) アサーティブネス	(1) わかりやすく説明するための条件 (1) アサーティブ行動の獲得 (2) 送り手を理解し、メッセージの内容を具体化し伝達方法を工夫する	講義 演習
4	9. チームメンバーの一人としての行動を考えることができる	1) コミュニケーションの障害と身体機能	(1) 失語症のある人への対応 (2) 構音障害のある人への対応 (3) 伝音・感音・神経伝達に問題のある人への対応 (4) 認知症のある人への対応 (5) 意識障害のある人への対応	講義 演習
2	終講試験	1) 報告・連絡・相談 2) カンファレンス	(1) 報告・連絡・相談の実際 (2) カンファレンスのすすめ方	講義 演習
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院 時実利彦著 人間であること 岩波新書 ナーシング・キャンパス 学研メディカル秀潤社			
参考文献	V.ヘーゲル著 湯楨ます・小玉香津子訳, 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 竹尾恵子編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社 大森武子他著 仲間とみがかく看護のコミュニケーション・センス 医歯薬出版株式会社 その他講義中に紹介			
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況			

授業概要

分野	専門分野	科目名	ヘルスアセスメント	担当講師	谷口留美・小椋貴文
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>看護は生きた身体と生きた心と、心身一体の感情とに働きかける実践である。人間への理性的で心のこもった、しかも科学の裏付けをもった視点を持たなければ「何を援助するか」は見えてこない。看護職の役割として、まず、その人の健康状態の見極めから始まる。「おや？」という段階から、病気が疑われれば病理的状态をよく把握し、心理・精神的状態と日常生活への影響を把握することが必要である。本科目では、まず生命徴候としての呼吸・循環・体温の仕組みを理解し、それらの観察・測定技術を習得する。さらに、病理的状态、心理的状态、生活機能を評価・査定できるフィジカル・アセスメントの基本的知識と、問診・視診・触診・聴診の技術を習得することをねらいとし、講義と演習をもって授業を進める。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
6	ヘルスアセスメントの意義と目的が理解できる	1) ヘルスアセスメントがもつ意味 2) 看護には何故観察が必要か 3) 情報の整理とアセスメント 4) フィジカルアセスメントの基本的技術	(1) ヘルスアセスメントとは - 看護の対象への関心の持ち方 (2) ヘルスアセスメントの目的 (3) 身体・心理・社会状態のアセスメント (1) 問診の技術 (2) 情報の整理 (3) 記録・報告 (1) フィジカルアセスメントに必要な技術 視診・触診・聴診・打診 (2) 全身状態・全体印象の把握	講義 講義 講義	
16	フィジカルアセスメントの基本技術とアセスメントが理解できる	1) 身体計測の目的・方法 2) バイタルサインの目的・方法 (1) 体温の観察とアセスメント (2) 脈拍の観察とアセスメント (3) 呼吸の観察とアセスメント (4) 血圧の観察とアセスメント	(1) 身体計測とは・身体計測の目的と適応 (2) 計測を行うにあたっての留意事項 (3) 測定評価の基準 (4) 身長・体重・身体の周囲径(胸囲・腹囲)測定、筋力スクリーニング、関節可動域測定 (5) 身体各部の測定の実際 (1) バイタルサインとは何か (2) バイタルサインの意味するもの (1) 体温とは何か (2) 体温の生理、異常と随伴症状 (3) 体温測定法と体温測定時の留意点 (1) 体循環系と肺循環系 (2) 脈拍とは (3) 脈拍の生理、脈拍の異常と随伴症状 (4) 脈拍の測定と観察と観察時の留意点 (1) 呼吸の生理 (2) 呼吸の生理、異常と随伴症状 (3) 呼吸の測定と観察 (4) 呼吸の測定と観察時の留意点 (1) 血圧とは何か (2) 血圧の生理、異常と随伴症状 (3) 血圧測定法と血圧測定時の留意点 ①触診法 ②聴診法	講義 演習 講義 講義 講義 講義	

		<p>3) 器官・系統別アセスメント</p> <p>(1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント</p> <p>(2) 循環器系のフィジカルアセスメント</p> <p>(3) 消化器系のフィジカルアセスメント</p> <p>(4) 脳・神経系のフィジカルアセスメント</p> <p>(5) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント</p> <p>(6) 頭頸部、乳房と腋窩のフィジカルアセスメント</p>	<p>(1) 解剖、体表解剖</p> <p>(2) 問診</p> <p>(3) 胸郭と肺のアセスメント：視診・触診、打診</p> <p>(4) 呼吸音のアセスメント：聴診</p> <p>(1) 問診</p> <p>(2) 頸部のアセスメント：中心静脈圧の推定、聴診・触診</p> <p>(3) 胸部のアセスメント：視診・聴診・触診</p> <p>(4) 末梢循環系のアセスメント</p> <p>(1) 解剖と機能、体表区分</p> <p>(2) 問診</p> <p>(3) 腹部全体のアセスメント：視診→聴診→打診→触診</p> <p>(4) 各臓器のアセスメント</p> <p>(1) 中枢神経系・末梢神経系</p> <p>(2) 脳神経のアセスメント</p> <p>(3) 運動機能のアセスメント</p> <p>(4) 反射のアセスメント</p> <p>(5) 感覚神経のアセスメント</p> <p>(1) 骨・関節・骨格筋の解剖生理</p> <p>(2) 筋・骨格系のアセスメント：問診・視診・触診</p> <p>(3) 関節可動域（ROM）の測定</p> <p>(4) 徒手筋力検査（MMT）</p> <p>(1) 問診</p> <p>(2) 頭部のアセスメント：視診・触診</p> <p>(3) 甲状腺のアセスメント：視診・触診</p> <p>(4) 頭頸部リンパ節のアセスメント：触診</p> <p>(5) 乳房と腋窩のアセスメント：視診・触診</p>	<p>講義 演習 モデル 使用</p>
2	心理・社会状態のアセスメントの意義と方法が理解できる	1) 心理・社会状態のアセスメント	<p>(1) 心理側面のアセスメント</p> <p>(2) 社会側面のアセスメント</p>	講義
4	ヘルスアセスメントの方法が理解できる	1) ヘルスアセスメント演習	1) 事例を用いてヘルスアセスメントを実践する	演習 GW
2	終講試験		(1) 筆記試験	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院</p> <p>菱沼典子著 第4版 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会</p> <p>系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進② 医学書院</p> <p>根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院</p>			
参考文献	<p>看護がみえる vol3 フィジカルアセスメント メディックメディア</p> <p>小寺豊彦著 楽しく学ぶ 看護につながる解剖生理 照林社</p> <p>時実利彦著 人間であること 岩波新書</p> <p>川島みどり編 触れる・癒やす・あいだをつなぐ手 TE-ARTE 学入門 看護の科学社</p>			
評価方法	出席時間、筆記試験、技術修得状況、課題・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	療養生活を支える援助技術 I 「環境、安全、活動・休息、安楽」	担当講師	小椋 貴文
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>人間は生まれ育った環境の自然的・社会的な条件の影響を受けながら、個性をもつ一人として自ら選んだ地域社会に参加していく。環境は人間にとって生存を脅かされず生き、生活することを保障されるものでなければならぬ。病床・療養環境においてはこの安全・安心=安楽こそが健康の回復・安寧に重要である。</p> <p>本科目では人間の健康と環境の関わりを学び、基本的看護技術として対象者の安全・安楽の観点から、ベッド及びその周囲、さらに療養環境・医療環境全体の調整法を学ぶものである。そして、病床環境を気持ちよく整え、医療物品の一つひとつまで有害微生物・危険物を除去し、対象者を守るための技術習得をめざす。なお、「安全の技術」履修にあたっては関連する「微生物学」と並行して学ぶこと。</p> <p>人は本来、自分の意志のとおりに行きたいところに行き、目的に応じて身体を動かし必要があれば適度な休息や睡眠をとる能力を持っている。人間にとって運動すること・活動すること、休息することの意義をふまえてこれらの援助について学ぶ。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 療養生活の安全確保が理解できる	1)安全を阻害する因子と医療安全対策	(1)安全を阻害する因子と対応 (2)安全な医療サービスの基本的な考え方	講義	
2	2. 感染予防対策が理解できる	1)標準予防策の考え方と内容 2)感染経路別予防策	(1)感染の成立 (2)標準予防策とは (1)感染経路別予防策	講義 演習	
2	3. 滅菌物の取り扱いの基本と感染性廃棄物の取り扱いが理解できる	1)滅菌物の取り扱い 2)感染性廃棄物の取り扱い	(1)無菌操作とは (1)滅菌物の取り扱いの実際	講義 演習	
2	1. 環境について考え、環境と健康の相互作用、入院患者の環境が理解できる	1) 環境 2) 生活と健康 3) 環境・安全のニード 4) 療養環境	(1) 環境とは、外部環境と内部環境の相互作用 (2) 感染や危険から保護されるニードと環境 (3) 病室・病床の選択 (4) 空間の縮小と生活・心理面への影響	講義 グループ ワーク	
2	2. 病室の環境のアセスメントと病床環境を整える目的・方法が理解できる	1) 快適な環境 2) 療養環境を整える援助の目的	(1) 室温湿度・光と音・色彩・空気の清浄性と臭気 (2) 人的環境・安全な環境 (3) 患者の自立を妨げない環境・清潔な環境 (4) 環境整備・ベッドメイキング・リネン交換の目的	講義 グループ ワーク	
2	3. ベッドメイキングの方法が理解でき、一人で安全で安楽なベッドを作成できる	1) 基本的な ベッドメイキングの方法と実際	(1) クローズドベッドとオープンベッドの作り方 (2) 物的環境の評価・作業環境の調整 (3) ボディメカニクスを活用した技術 (4) 安全上しなければならないことの確認	講義 演習	

2	1. 活動・休息の意義とメカニズム、援助方法が理解できる	1) 活動・休息の意義 2) 活動・休息のメカニズム 3) 活動・休息のアセスメント 4) 活動・休息の援助	(1) 活動・運動の意義 (2) 活動・運動の生理学的メカニズム (3) 日常生活動作 (ADL) 手段的日常生活動作(IADL) (4) 睡眠・休息の意義 (5) 睡眠の生理学的メカニズム (6) 睡眠の種類と睡眠障害 (7) 睡眠・休息の援助	講義 演習
2	2. 各種体位の特徴と移動の援助方法が理解できる	1) 姿勢と体位 2) 移動の援助	(1) 姿勢と体位の種類・特徴 (2) ボディメカニクスの基本 (3) 体位変換技術の基礎知識 (4) 歩行援助の基礎知識 (5) 移乗・移送援助の基礎知識	講義 演習
2	3. 安全・安楽・自立を考慮した移動の援助が実施できる	1) 援助の実際	(1) 体位変換の実際 (2) 移乗・移送の実際 車椅子、ストレッチャー	演習
2	1. 体位保持の基礎知識と援助の実際が理解できる	1)体位保持	(1) 体位保持の基礎知識 (2) 体位保持の援助の実際	講義 演習
2	2. 褥法の基礎知識と援助の実際が理解できる	1)褥法	(1) 褥法の基礎知識 (2) 褥法の実際	講義 演習
2	3. 身体ケアによる安楽への援助が理解できる	1)身体ケアを通じてもたらされる安楽	(1)身体機能に直接的にはたらきかける安楽技術	講義
4	環境整備の援助方法を理解して、対象者に合わせた援助方法を考え、実施できる	対象者に合わせた環境を整える援助技術	(1)対象者の安全、安楽を考慮した移乗の援助、体位変換の援助 (2)ベッドの清潔・ベッド周りの整理整頓、ベッドメイキング	演習
2	試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院 菱沼典子 著 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院 V.ヘンダーソン 著 湯楨他 訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 ナーシングキャンパス 学研			
参考文献	秋葉公子 他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 スーヴェルヒロカワ 平田雅子 著 ベッドサイドを科学するー看護に活かす物理学 学件メディカル秀潤社 時実利彦 著 人間であること 岩波新書 小寺豊彦 著 楽しく学ぶ！看護につながる解剖生理 昭林社 竹尾恵子 編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社			
評価方法	出席時間、筆記試験、技術確認、課題・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	療養生活を支える 援助技術Ⅱ 「食・排泄・衣・清潔」	担当講師	大海 貴子
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>人が生命をはぐくみ、またそれを維持するためには生活行動が不可欠である。身なりを整え、身体を清潔に保つことは、自分自身が心身ともに心地よいためだけでなく、社会の中で人と人との関係を円滑に保つうえで大きな影響をもたらす。食事は療養生活を続けていくための源であり、治療の一部でもある。なんらかの理由・制限が生じた状況において看護師が行う援助は、生理的な意味のみならず、その人の病との向き合い方や、食べることを通じた人との関係性など、心理・社会的な意味にまで影響を及ぼす。生命の維持や成長にとって必要な栄養素をとり込み、消化・吸収・代謝を経て不要なものは代謝産物、老廃物として排泄される。排泄は、だれもが他者の世話になることなく、自分で行いたいと思うことの一つである。また、対象者への身体にはたらきかけるすべての援助は、安楽につながるといっても過言ではない。病気や障害、治療上の制約によって、また、健康であっても加齢や幼弱であることでそれらの行動がとれない場合がある。これらのことをふまえ、本科目では「体をきれいにし、適切な衣服をまとうこと」「食すること」「排泄すること」の意義をふまえてこれらの援助について学ぶ。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
3	1.療養生活を支える援助を行う意義を理解する	1.療養生活を支える援助とは	1.療養生活を支える援助技術の意義 ・生理的、心理的、社会的意義について ・援助者に求められる基本的姿勢	講義	
2	2.根拠を理解しながら、援助方法を実施する	2.清潔を助ける援助 ・全身清拭 ・寝衣交換 ・部分浴 ・洗髪 ・入浴 ・シャワー浴 ・口腔ケア ・陰部洗浄	2.清潔を支える援助 1) 清潔援助の基礎知識 2) 全身清拭・寝衣交換の実際 3) 部分浴の実際 4) 洗髪の実際 5) 口腔ケアの実際 6) 陰部洗浄の実際	講義 演習 演習 演習 演習	
2	3.単元目標2を活かし、複合的な援助を実施する	3.食事を支える援助 ・食事摂取方法 ・食事介助	3.食事を支える援助 1) 食事援助の基礎知識 2) 食事介助 (経口摂取が出来る対象者への援助)	講義 演習	
2		4.排泄を支える援助 ・自然排泄 ・尿器、便器 ・浣腸、摘便 ・一時的導尿 ・持続的導尿	4.排泄を支える援助 1) 排泄援助の基礎知識 2) 尿器・便器を使用した排泄援助の実際 3) 浣腸の実際 4) 一時的導尿実施に関する援助技術 膀胱留置カテーテル固定・管理に関する援助技術の実際	講義 演習 演習 演習	
3		5.療養生活を支える援助の実施	5. 療養生活を支える援助 * 食事・清潔・安楽を考えた援助の実際 (手浴、口腔ケア、ポジショニング)	演習	
2			終講試験	試験	

テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院 菱沼典子 著 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 V.ヘンダーソン 著 湯慎他 訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会
参考文献	秋葉公子 他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ノーヴェルヒロカワ 平田雅子 著 ベッドサイドを科学するー看護に活かす物理学 学件メディカル秀潤社 時実利彦 著 人間であること 岩波新書 小寺豊彦 著 楽しく学ぶ! 看護につながる解剖生理 昭林社 竹尾恵子 編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社
評価方法	出席時間、筆記試験、技術確認、課題・授業の取り組み状況

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	看護展開方法の基礎	担当講師	杉垣 ひとみ
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>看護は「対象者の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復及び苦痛の緩和を行い、生涯を通して、その人らしく生を全うすることができるよう身体的、社会的、精神的に支援することを目的としている。」このような看護を展開するための思考法に問題解決思考、目標志向型思考などがある。</p> <p>本科目では、対象に最もふさわしい看護を意図的・系統的に、かつ科学的・効果的に行うために、その手段・方法の基盤となる考え方を看護理論による枠組みを理解しながら学ぶ。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 看護の目的に向かって看護を展開する考え方が理解できる	1) 看護とは 2) 看護における対象のとらえ方	(1) 看護の目的・看護の機能 (2) 看護実践のための思考法 (3) 問題解決思考と目標志向型思考 (4) 看護過程と看護診断 (5) 看護過程の基盤となる考え方 ・クリティカルシンキング ・リフレクション ・臨床推論と臨床判断	講義 グループワーク	
2	2. 対象の全体のアセスメントのための枠組みが理解できる	1)看護理論による枠組み	(1)看護理論とアセスメントの枠組み ・ヘンダーソン、ゴードン、ロイ、オレム	講義 グループワーク	
2	3.看護過程の構成要素の特徴が理解できる	1) 看護過程の構成要素	(1)看護過程の構成要素とその特徴 (2)看護過程の利点 (3)看護診断との違い	講義 グループワーク	
2	4.アセスメント（情報の収集と解釈）が理解できる	1) アセスメント 2) 情報の種類 3) データベースアセスメント	(1) 主観的情報と客観的情報 (2) 客観的情報の読み取り方 ーバイタルシグナル・身体計測値・臨床検査値 (3) ヘンダーソンの 14 の基本的ニーズに基づく枠組みでデータベースアセスメント ①基本的欲求の状態 ②基本的欲求を変容させる病理的状态 ③基本的欲求に影響を及ぼす常在条件 (4) ゴードンの枠組みとの対比	講義 グループワーク	
2	3.「その人」の「重点的に考える」焦点アセスメントが理解できる	1) ニードの充足・未充足	(1) 「体力」「意思力」「知識」ーどこが欠如し、ニードが未充足状態なのか (2) その人の持てる力の維持向上 (3) その人のニードが充足された状態(目標)	講義 グループワーク	
4	4. 対象者の全体像をつかむための関連図が理解できる	1) 関連図の意義 2) 関連図の考え方 3) 全体像	(1) 関連図の意義；問題が明確になる (2) 関連図から明らかになること ①問題の原因(関連因子)誘因(危険因子) ②症状、徴候	講義 グループワーク	

2	5. 看護問題の明確化の過程、看護の焦点の抽出の過程が理解できる	1) 看護問題の種類と看護の焦点 2) 優先順位	③強化したい強み ④問題の優先順位 (1) 立体像モデルと全体像 (1) 実在・リスク・ヘルプ・ポジション型の看護問題 (2) 問題の優先順位の決定—決定の根拠 (3) 看護の焦点	講義 グループワーク
2	6. 対象者に期待される成果の明確化・看護計画立案が理解できる	1) 看護目標 2) 看護計画	(1) 期待される成果＝即ち、看護目標 (2) 標準看護計画(スタンダードケアプラン) (3) 観察計画(O-P) (4) 直接ケア計画(T-P) (5) 教育・指導・情報提供計画(E-P)	講義 グループワーク
1	7. 援助の実施、及び実施後の評価と計画修正の過程が理解できる	1) 実施 2) 評価 3) リフレクション	(1) 実施過程を観察し、期待される成果・看護問題が解決に向かったかを記録、評価 (2) 評価することで、看護計画の修正 (3) 評価はスタートラインを引き直す段階	講義 演習
1	8. 看護記録の目的と機能、看護記録の記載方法が理解できる	1) 看護記録 2) 記録の構成	(1) 記録の法的位置づけ (2) 看護記録の目的と機能 (3) 守秘義務違反と記録の改ざんは法的責任を負う (4) 看護記録の構成	講義 演習
1	9. 筆記試験		<筆記試験>看護過程の知識のまとめ	筆記試験
9	10. 紙上患者の「看護過程」が展開できる	1)看護過程の展開	(1) 事例対象者のニーズの充足状況の判定と看護問題の明確化看護の焦点の明確化 (2) 看護実践と評価	講義 グループワーク 演習
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 秋葉・江崎他著 第4版 看護過程を使ったVogel's看護論の実践 ノーヴェル・ヒコリ			
参考文献	V.Vogel's著 湯楨他訳, 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 井上智子他編集 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 第2版 医学書院 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント第5版 学研メディカル秀潤社 看護科学研究会・看護教育研究グループ 患者理解への看護の視点 日本看護協会出版会 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 ナーシング・キャンパス 2022 学研メディカル秀潤社			
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	診療の補助技術 I	担当講師	和田美穂
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>現代の医療は刻々と変化し、検査内容も治療方法もより高度化している。正しく検査が行われ、治療効果が発揮されることは対象者の健康回復・安寧のために重要である。しかし、検査・治療・処置には「痛み」が伴うことが多い。したがって、「診療の補助」における看護の役割は正確に検体を採取すること、与薬・輸血の実施、様々な処置の介助だけでなく、身体侵襲に伴う苦痛を最小限にすることである。これらのことをふまえ本科目では、正確さと対象の安全・安楽が同時に要求される検査・治療・処置に伴う看護技術の習得をねらうものである。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 診療の補助技術の位置づけと安全な技術の提供について理解できる	1) 診療の補助技術と安全な技術提供	(1) 診療の補助技術とは (2) 安全な技術提供に向けた基本技術	講義 演習	
6	2. 検査・診察を受ける対象者への理解と検査・診察における看護師の役割が理解できる	1) 検査の意義 2) 検査を受ける対象 3) 検査における看護師の役割	(1) 診療における検査の位置づけ (2) 検査 - 診断プロセスと対象者の心理 (3) 看護師の役割 ①正確な検査結果を得る ②検査に伴う危険や苦痛を最小限にする	講義演習 シュレーター 使用	
	3. 検体採取方法が理解できる	1) 生体検査 2) 検体検査	(4) 消化管造影・超音波検査時の看護 (5) MRI・内視鏡・心電図・肺機能検査の介助 (6) 尿・便・喀痰の検査 (7) 穿刺法の介助(腰椎・胸椎・腹腔・骨髄)		
4	4. 血液検査の為の血液採取について留意点を述べる事ができる	1) 血液検査の種類と目的 2) 採血の準備 3) 採血に伴う事故防止	(1) 静脈血採血 (2) 動脈血採血 (3) 末梢血管からの血糖測定 (1) 注射器・注射針の種類とその構造、取り扱い方 - 清潔と安全への留意 (2) 採血部位の選択 (1) 消毒方法・穿刺角度と注射器の固定 (2) 血液吸引時の注意 (3) 神経障害・皮下出血・動脈穿刺・患者誤認の予防	演習 シュレーター 使用 講義 講義	
	5. 静脈血採血が実施できる	1) 静脈血採血の実際	(1) 注射器による方法 (2) 真空採血管による方法	演習	
2	3. 与薬の意義と目的と看護師の役割が理解できる	1) 与薬の基礎知識 2) 看護師の役割	(1) 与薬の基礎知識 ① 薬物療法・与薬の定義 ② 与薬を受ける患者の特徴 ③ 薬理作用に影響する因子 (2) 正しい与薬・与薬の原則 (3) 医薬品の規定・薬剤の管理 - 毒薬・劇薬・	講義 講義	

4	4. 与薬の方法が理解できる。	1) 経口与薬 2) 非経口薬 3) 注射法	麻薬 (1) 経口与薬の特徴/援助方法と留意点 (2) 吸入薬の特徴と吸入の援助方法と留意点 (3) 点眼・点耳・点鼻薬の特徴と留意点 (4) 経皮的与薬の特徴と援助方法と留意点 (5) 坐薬の特徴と直腸内与薬の援助方法 (6) 注射法/注射法の目的と種類	
8	5. 各注射法が実施できる。	1) 薬液の準備 2) 皮下注射 筋肉内注射 皮内注射 3) 静脈内注射法	(1) 薬剤準備①「アンプルからの吸い上げ」 薬剤の準備②「バイアルからの吸い上げ」 (2) 皮下注射の適応・注射部位の選定と実際 (3) 筋肉内注射の適応・注射部位の選定と実際 (4) 皮内注射の適応・部位の選定 (1) 静脈内注射法の概要・目的 (2) ワンショット法の適応 (3) 点滴静脈内注射法の適応 (4) 中心静脈カテーテル留置の適応 (4) ワンショット法の実際 (5) 点滴静脈内注射法の実際と管理	講義 演習 講義 演習
2	6. 輸血に関する基礎知識が理解できる。	4) 輸血療法の基礎知識	(1) 輸血療法の種類と目的 (2) 輸血の副作用 (3) 輸血療法を受ける患者の援助	講義
2	試験		筆記試験 (検査時の看護と与薬の看護)	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術II 医学書院 村田 満 他編 看護活かす検査値の読み方・考え方 第2版 総合医学社 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院			
参考文献	佐藤久美 他監修 看護技術が見える vol② 臨床看護技術 メディックメディア 本庄恵子 他監修 写真でわかる臨床看護術① 注射・検査に関する看護技術を中心に！インターメディカ 平田雅子 著 ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学 学研メディカル秀潤社 竹尾恵子 編 医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス 第4版 学研メディカル秀潤社			
評価方法	筆記試験、課題レポート・授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	臨床看護総論 I	担当講師	田中 佳代子
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間
科目設定のねらい 看護師は患者を目の前にすれば、たとえ看護計画がなかったとしても自己の経験値を頼りに状況を判断し、必要な看護援助を実践しなければならない。そこでは「臨床判断力」を用いて EBN に基づいた看護実践が求められる。本科目では、専門基礎分野の解剖生理学・病態生理学・看護につながる疾病論で学んだ臨床判断能力の基盤となる学習内容を活用し、一段階ステップアップした臨床判断のための思考を育成することを目的とする。臨床の場（看護活動の場）とはどのようなものなのかを学んだ上で、臨床判断モデルのプロセスである「気づき」→「解釈」→「反応」→「省察」の 4 つのフェーズの、「気づき、解釈する」段階を学ぶ内容とする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 臨床看護における看護の対象と看護師の役割について理解する	1) 臨床看護とは	(1) 看護の対象・看護活動の場 ① ライフサイクルから捉えた対象 ② 生活と療養の場（看護活動の場）から捉えた対象 (2) 看護師の役割 ① ライフサイクル各期に応じた看護の必要性 ② 病院・施設における看護師の役割 ③ 地域における看護師の役割	講義	
2	2. 健康状態に応じた看護の考え方を理解する	2) 健康状態と看護	(3) 健康状態の考え方と各期に応じた看護の特徴 ① 急性期（回復期） ② 慢性期 ③ リハビリテーション期 ④ 終末期	講義	
2	3. 治療や処置を受ける対象者への看護について理解する	3) 治療・処置と看護	(4) 治療や処置と看護の概要 ① 各種治療方法 ② 創傷処置・創傷ケア	講義	
8	4. 対象のニーズ、気付き、健康問題について「気づき、解釈」する	4) 臨床判断のプロセスをたどり、事例について考える（必要な看護援助を考える）	(5) 臨床判断のプロセス (6) 呼吸困難の症状を示す対象者への看護を考える ① 対象者の状況について気づく ② 状況について、何が生じているか考える ③ 状況をアセスメントするための意図的な情報収集 ④ 把握している情報の意味づけをする ⑤ 看護介入の方向性を決定する	事例演習	
1	試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第 2 版 医学書院				
参考文献					
評価方法	筆記試験				

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	地域と地域で暮らす人々の健康	担当講師	坂本 真由美
実施年次	1年次	単位数	2単位	時間数	45時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>本科目では、地域について知り、地域で暮らす人々の理解を深め、地域の生活環境が健康に与える影響を捉え、健康な生活について学ぶ。</p> <p>但馬地域について調査し、但馬地域の特徴を理解する。また、育児支援活動、教育機関、企業、病院、診療所、高齢者の地域交流活動の場に出向き地域で暮らす人々と様々な看護の場について理解を深める。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
10	1. 暮らしについて理解できる	1) 暮らすということ	(1) こどもを生き育てる (2) 学ぶ (3) 働く (4) 病を治す (5) 老いと共に生きる (6) 最期を迎える	講義	
		2) 支え合って生きるとは	(1) 家族 (2) 仲間 (3) 近隣の人々 (4) 学校や職場 (5) 支え合い	講義	
10	2. 暮らしの基盤の地域の特徴の特徴を理解できる	4) 但馬地域について知ろう	但馬地域に暮らす人々について知る ・但馬地域について ・但馬地域で暮らす人々の生活について調査したことを整理する (生活マップ作製①する)	演習	
10	3. 暮らしが健康に与える影響が理解できる	5) 暮らしが健康に与える影響	(1) 地域の生活環境が健康に与える影響 ・文化的環境 ・社会的環境 ・自然環境	講義 演習	
14	4. 健康を支える社会のしくみと看護活動の場解できる	6) 暮らしと健康の実際と看護活動の場	(2) 地域で生活する人々の健康の特徴 (3) 地域における様々な看護活動の場 ・地域で生活する人々の健康生活と看護の場について調査する ・調査した内容から、健康な生活について考える。 ・健康を支える社会のしくみ、看護の役割について考える。 (生活マップ作製②する)	講義 演習	
1	試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院 国民の福祉と介護の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会				
参考文献	系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉 医学書院				
評価方法	出席時間 筆記試験 演習課題 レポート 授業の取り組み状況				

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	成人看護学概論	担当講師	小椋 貴文
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>現代を生きる大人の生活は時代と共に様変わりしているが、とりわけ現代の経済的・環境的变化は目まぐるしく、大人の健康問題も複雑性や多様性を増している。さらに、近年医療制度改革・医療システム変革が大きく進められている。大人の健康と生活の包括的な理解のためには、大人の生活や健康に関する最新の動向をキャッチし、時代を生きる大人の健康生活を多角的にとらえる視点を持つ必要がある。このような背景から、本科目では大人の生活と健康に関する基本的知識を基盤とし、大人の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. ライフサイクルからみた成人期の特徴が理解できる	1) 対象の理解	(1) 成人とは、「大人」とは (2) 生涯発達と成人期 ① 生涯発達とは ② 発達段階・発達課題 (3) 成人期各発達段階別の身体的・精神的・社会的特徴 ① 青年期の特徴 ② 壮年期の特徴 ③ 中年期の特徴	講義 グループワーク	
2	2. 成人期にある対象が生活者として理解できる	1) 生活者としての理解 2) 社会的存在としての理解	(1) 労働と生活 (2) 家族からみた大人 (3) 人生をたどること (1) 発達課題と社会的存在としての役割遂行 ① 所属・役割達成欲求 ② 責任・ワークライフバランス ③ 性別役割行動	講義 グループワーク	
2	3. 成人期にある対象の健康問題の特徴が理解できる	1) 成人期に特有な健康問題の特徴 2) 健康をまもる社会システム	(1) 成人の健康の状況 ① 生と死の動向 ② 罹患・受療の状況 ③ 生活習慣と健康 ④ 職業と健康問題 ⑤ 生活ストレス (2) 定期健康診断 －職場と地域の健診 各種相談システム	講義 グループワーク	
6	4. 成人期にある対象への看護アプローチの基本が理解できる	1) 成人への看護アプローチの基本	(1) 生活の中で健康行動の促進への援助 (2) 医療者と対象者との信頼関係 (3) 意思決定支援 (4) 家族支援－家族としての成長 (5) 看護実践における倫理的配慮 (6) チームアプローチと看護マネジ	講義	

2	5. 療養の場の移行に伴う看護の役割が理解できる	2) 災害時の看護	メント (1) 身体障害をもつ対象者への看護 (2) 治療継続が必要な対象者への看護	講義
1	試験	1) 退院支援と継続看護	(1) 障害を持ちながらの生活と社会的支援 (2) 退院支援	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 医学書院			
参考文献	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版 田畑・田中共編 哲学－看護と人間に向かう哲学 ニューヴェル・ヒロカワ 厚生指標増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	老年看護学概論	担当講師	大海 貴子 養父市保健師
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
科目設定のねらい 老年期にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。超高齢社会における医療・保健・福祉制度における看護の役割について学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 老年期にある人々の特徴を説明できる	1) ライフサイクル「老い」の意味 2) 老年の発達課題 3) 高齢者の多様性	(1) 高齢者とは (2) 老いと加齢 (3) 人口学的指標・健康指標からの老年期 (4) ライフステージとしての老年期 (5) 高齢者の発達課題・生活史	講義 グループワーク	
4	2. 老年期にある人々の健康と生活について理解できる	1) 加齢にともなう【身体的・精神的・社会的側面】の変化と適応 2) 疾患の特徴 3) 健康と生活機能	(1) 身体的・精神的・社会的側面の加齢変化 (2) 高齢者に特有な健康問題 脱水症、摂食・嚥下障害 低栄養状態（サルコペニア、フレイル） ロコモティブ・シンドローム 骨粗鬆症 認知症 など	講義 グループワーク 演習	
6	3. 高齢者を取り巻く社会が理解できる	1) 高齢者と家族 2) 療養の場の変化における看護のあり方 3) 養父市の現状と取り組み 4) 高齢者にとっての死 5) 高齢者を支える社会資源	(1) 高齢と家族 家族構成・家族形態の変遷 (2) 地域の歴史、文化と生活環境 地域包括ケア：ライフサイクルに応じた生活の場、病気と治療に伴う生活の場、継続看護の必要性 (3) 高齢者を支える制度 医療保険、高齢者の医療の確保に関する法律に基づく制度、介護保険制度、公的年金制度、生活保護、成年後見制度、日常生活自立支援事業 (4) アドバンス・ケア・プランニング (5) 社会資源	講義 グループワーク	
2	4. 老年看護の役割を理解できる	1) 老年看護の倫理的課題 2) 老年看護における諸理論	(1) 高齢者の尊厳と権利擁護(アドボカシー) (2) エンドオブライフケア(アドバンスド・ディレクティブ)	講義 グループワーク	

1	試験	3) リスクマネジメント	(3) 高齢者差別(エイジズム) 高齢者虐待 QOL 健康の概念 (1) ストレングスモデル、コンフォート理論、ICF (2) 高齢者のリスクマネジメント ① 医療事故、② 救命救急、③ 災害 (3) 自立支援とエンパワメント、専門職連携	試験
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院 国民衛生の動向・厚生指標 一般財団法人厚生労働統計協会			
参考文献	舟島なをみ 他編 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 山田律子 他編 生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版 医学書院			
評価方法	筆記試験 60点 授業態度、課題に対する取り組み及び課題レポート 40点			

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	小児看護学概論	担当講師	小谷和大
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
科目設定のねらい 小児の成長・発達の過程と生活の特徴を理解し、よりよい健康状態を保ち、成長・発達を促すための看護の役割を理解する。さらに、基本的な生活習慣の獲得や遊びを通して、成長・発達を促すための看護を修得する。また、子どもを取り巻く社会に目を向け、子どもの権利を守るための看護の役割を考える。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指 導 方 法	
4	1.小児看護の理念と役割について理解する	1) 小児看護の対象 2) 小児看護の変遷 3) 小児看護における倫理 4) 小児看護の課題	子どもの特徴 子どもと家族・社会 子どもと医療 小児医療と看護の変遷 子どもの権利と親の責任 小児看護の役割と責務・課題	講義 グループワーク	
10	2.小児の成長・発達と看護について理解する	1) 各発達段階の成長と発達	(1) 成長と発達 ① 発達の定義と原理原則 ② 成長発達に影響する因子 ③ 成長発達の評価 ④ 子どもを理解するための発達理論 【自我発達理論】【認知発達理論】【愛着理論】他 (2) 各発達段階の成長と発達 新生児期・乳児期 ①形態的特徴②身体生理の特徴③各機能の特徴 幼児期 ①形態的特徴②身体生理の特徴③各機能の特徴 学童期・思春期 ①形態的特徴②身体生理の特徴③各機能の特徴	講義 グループワーク 講義 グループワーク 講義 グループワーク	
1	3.試験		筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 舟島なをみ他編 看護のための人間発達学第5版 医学書院				
参考文献	山元恵子監修 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ 桑野タイ子他編 新看護観察のキーポイントシリーズ小児Ⅰ 中央法規出版				
評価方法	出席状況、授業の取り組み、レポート、筆記試験				

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	母性看護学概論	担当講師	谷口 留充
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>本科目では、母性看護の概念と母性看護の実践を支える概念を学ぶ。また、女性の生涯を通じた健康の保持増進の観点からリプロダクティブヘルスに関する課題や、リプロダクティブヘルスケアについて学ぶことをねらいとする。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 母性看護の概念と母性看護の実践を支える概念を理解する。	1) 母性看護の概念	(1) 母性・父性とは (3) 母性看護における対象の特徴 (4) 母性看護の中核理念と基盤となる概念	講義 グループワーク	
2	2. リプロダクティブヘルスに関する概念を理解する。	2) リプロダクティブヘルスに関する概念	(1) リプロダクティブヘルスとは (2) リプロダクティブヘルス/ライツとは (3) セクシュアリティとジェンダー (4) 性意識の発達	講義 グループワーク	
6	3. リプロダクティブヘルスケアについて理解する。	3) リプロダクティブヘルスの現状 4) リプロダクティブヘルスケア	(1) リプロダクティブヘルスに関する動向と課題 (2) リプロダクティブヘルスに関する法・施策 (1) 家族計画と受胎調節 (2) 性感染症とその予防 (3) 喫煙と女性の健康 (4) 人工妊娠中絶と看護 (5) 性暴力を受けた女性に対する看護	講義 グループワーク	
2	4. リプロダクティブヘルスに関する倫理について理解できる。	5) リプロダクティブヘルスにおける倫理	(1) 生命倫理、妊娠、褥婦、胎児および新生児の権利と擁護 (2) 出生前診断 (3) 人間の性と生殖や医療における倫理	講義 グループワーク	
1	試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院				
参考文献	舟島なをみ 他編 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 国民衛生の動向・厚生指標 一般財団法人厚生労働統計協会				
評価方法	筆記試験、授業の取り組み状況、レポート				

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	精神看護学概論	担当講師	岩永 力男 田中佳代子
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>精神障害とは人間ならば誰でも体験する可能性があることや、こころの健康－不健康について学び、精神障害はその人の生きるプロセスであることを理解する。そして精神看護は、人々が障害の有無にかかわらずその人らしく生きていくこと、すなわち自己実現に向けた援助であることを理解し、こころの問題を社会全体で考えることについて、歴史的な偏見や誤解、こころの健康の保持・増進、さらに倫理的な観点から看護が果たす役割について学ぶものとする。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. こころの健康の意義を理解する 2. 精神看護の目的と意義を理解する	1) 障害の捉え方 精神障害とは 2) 「こころのケア」と社会 3) 精神看護の目的と意義	(1) こころの「健康」と「障害」 (2) 障害の捉え方 (ICFモデル) (3) 自殺問題とメンタルヘルス (4) 精神医療の課題 (5) 「精神科看護」と「精神看護」 (6) 看護の目的・対象	講義	
6	3. こころの機能と発達について理解する 4. 自己が形成される過程を理解する	4) こころのしくみと人格の発達 5) こころ (精神) の発達に関する主要な考え方	(1) 人格と気質 (2) 自我の構造と機能 フロイトの精神力動理論 (3) 自我の防衛機制 (4) こころ (精神) の発達に関する主要な考え方 ・エリクソンの漸成発達理論・ボウルビーの愛着理論・コフートの自己心理学	講義 グループ 討議	
4	5. こころ (精神) の危機状況と精神保健について理解する	6) 危機の概念と予防 7) ストレスと対処 8) コミュニティにおける精神保健 9) 災害時の精神保健	(1) 危機理論 (2) ストレス理論 (3) 適応理論、コーピング (4) 発達各期における危機 (4) 「危機」への看護介入、予防概念 (5) ASD と PTSD (6) 災害時の心のケアとメンタルヘルス支援チーム (7) 心の回復力 (リカバリー)	講義 グループ 討議	
2	7. 精神保健福祉に関する法律と権利擁護について理解する	10) 精神保健福祉医療の歴史と法制度	(1) 精神保健福祉医療の歴史と看護 (2) 偏見、差別、スティグマ (3) 精神保健福祉の法制度 (4) 権利擁護 (5) 精神保健福祉に関する支援システム	講義 グループ 討議	
1	試験				
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 精神看護学①精神看護の基礎,医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 精神看護学②精神看護の展開 医学書院</p> <p>長田久雄 看護学生のための心理学 医学書院</p> <p>舟島なをみ 看護のための人間発達学 医学書院</p>				

参考 文献	<p>V.E.フランクル 夜と霧 みすず書房</p> <p>武井麻子 精神看護学ノート 医学書院</p> <p>服部祥子 生涯人間発達論—人間への深い理解と愛情を育むために 医学書院</p> <p>R.I.エヴァンス, 岡堂他訳 エリクソンは語る—アイデンティティの心理学 新曜社</p> <p>フロイド, 加藤訳 フロイド選集 10 不安の問題 日本教文社</p> <p>A.H.マズロー, 上田訳 完全なる人間—魂のめざすもの 誠信書房</p> <p>遠藤周作 こころの不思議、神の領域 PHP</p> <p>梶田叡一 自己意識の発達心理学 金子書房</p> <p>国分康孝 心とこころのふれあうとき—カウンセリングの技法をこえて 黎明書房</p> <p>依田明 なぜ他人の眼が気になるか—一人の心の不思議がわかる本 PHP</p>
評価 方法	<p>筆記試験 レポート 授業や課題の取り組み状況</p>

授 業 概 要

分 野	専門分野	科目名	基礎看護学実習 I	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
実施年次	1年次	単位数	1単位	時間数	45時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>地域で生活する対象者が健康障害にて、医療の場で療養生活をする事になり生活が大きく変化する。その生活の変化や日常生活への影響から、対象者は様々な思いを抱いている。本来の生活の場から、入院することによって患者となった対象者の思いを知り、患者の気持ちを理解する。</p> <p>また、対象者の健康問題が日常生活へ及ぼす影響を捉え、基本的欲求充足に向けた援助実践し、対象者の基本的欲求充足状態に向けた援助について理解する。</p>					
時間	単元目標	内 容			実習時期
45	<p>1. 看護の対象としての入院患者と療養環境を知ることができる</p> <p>2. 対象者との人間関係を形成しそのプロセスから対人関係における自己の傾向を知ることができる</p> <p>3. 対象者の健康上のニーズを明らかにすることができる</p> <p>4. 生活援助技術と観察技術を実際に適応して基本的欲求の充足をはかることができる</p> <p>6. 対象者との関わりを通して、看護とは何かを述べるることができる</p>	<p>(1) 対象者の入院の目的の把握</p> <p>(2) 対象者の療養環境の実際の観察</p> <p>(3) 対象者の入院生活状況の把握</p> <p>(4) 対象者の思い</p> <p>(1) 対象者をありのまま理解しようとする態度</p> <p>(2) 対象者を尊重した態度</p> <p>(3) 自己の対人関係の傾向に気づく</p> <p>(4) 自己洞察の重要性</p> <p>(1) 対象者の病理的状态</p> <p>(2) 対象者の基本的欲求に影響を及ぼす常在条件</p> <p>(3) 対象者の生活行動としての基本的欲求の状態</p> <p>(4) 対象者の入院・病気・治療に対する受けとめ</p> <p>(5) 対象者の思い</p> <p>(1) 対象者のバリエーション、症状の観察</p> <p>(2) 基本的欲求の把握</p> <p>(3) 基本的欲求の充足のための援助の提供</p> <p>(4) 自己の援助の評価</p> <p>(1) 実習を通して学生—患者の関わり</p> <p>(2) 看護の視点</p> <p>(3) 援助過程を振り返って看護の言語化</p>			1年次1月
評価方法	出席時間、実習要項に準ずる				